

日野市教育委員会

学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画

令和 6 年 1 0 月

日野市教育委員会

はじめに

中学校等（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部を含む。以下同じ。）における部活動は、これまで生徒のスポーツ文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。

一方、近年部活動を巡る状況については、少子化が深刻化する中、特に持続可能性という面での課題や、競技経験のない教員が指導せざるを得ない点、休日も含めた運動部活動の指導や大会への引率、運営への参画が求められる点など、教員にとって負担となっていることも指摘されています。

こうした状況を踏まえ、令和2年9月に、文部科学省、スポーツ庁、文化庁は、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革として、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動を望まない教員が休日の部活動に従事しないこととする。」と示すとともに、令和4年12月にスポーツ庁・文化庁は、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関するガイドライン」を作成し、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として必要な対応を示しました。

東京都は、令和5年3月に「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を作成し、部活動検討委員会において、都内公立学校における部活動の地域連携・地域移行に向けた課題整理を行うとともに、国の方向性も踏まえ、改革推進期間において、都内の公立中学校等の休日における部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向け、推進の方向性を示しました。

日野市では、これまで平成31年に「日野市における部活動に関する方針」（部活動プロジェクト）を策定しました（令和5年に改訂）。令和2年からは、教員の働き方改革を踏まえた部活動改革を進めるとともに、令和4年10月に日野市地域スポーツ連携協議会を設置し、行政のみならず、大学や民間事業者を含めたスポーツ関係団体が連携し「日野型地域文化スポーツ活動 ひのスポ！ ひのカル！」を推進してきました。また、これまで文部科学省（スポーツ庁）・経済産業省をはじめ北海道から沖縄県まで様々な教育委員会等が視察に訪れるなど部活動改革を進める先進地区として全国から注目をされています。

国や都の動向を踏まえ、これまでの取組に加え、日野市の子供たちにとって魅力あるスポーツ・文化芸術に触れる活動を確保するとともに、教員の負担軽減につながる取組をより一層推進していくために本計画を作成しました。

令和6年10月

日野市教育委員会

1. 学校部活動の地域連携・地域移行に関する策定の目的

学校部活動に関する課題の解決に向け、日野市の実態に合わせ、地域の文化・スポーツ関係団体が連携し、子供を中心とした誰もが文化スポーツに親しむことができる持続可能な文化スポーツ環境の実現を図るため、日野市地域文化スポーツ連携協議会（以下「協議会」という。）を中心に、学校、地域、保護者をはじめとする関係者が取組の方向性を共有しつつ、学校部活動の地域連携・地域移行を推進することを目的に策定する。

2. 地域連携・地域移行に向けた推進目標

令和8年度以降を見据えつつ、令和7年度末までに、地域連携・地域移行に向けた取組を進めるとともに、休日の学校部活動を望まない教員が休日の学校部活動に携わらない環境の構築を、段階的かつ可能な範囲で実現する。

3. 成果指標

生徒、保護者、教員等へのアンケートを実施し、それぞれの声を聞きながら研究を進め、成果指標を以下のように定める。

- ・ひのスポ！ひのカル！を有意義だと感じている生徒、保護者の増加
- ・ひのスポ！ひのカル！を有意義だと感じている指導者の増加
- ・教員が指導に携わらない休日の学校部活動の増加、教員の休日の学校部活動への従事時間の縮減

4. 協議会の設置

地域の文化スポーツ関係団体等が連携し、子供を中心とした誰もがスポーツに親しむことのできる持続可能なスポーツ環境の実現を図るために設置。

協議会の構成員は以下のとおり。

- ・教育部統括指導主事
- ・教育部生涯学習課長
- ・企画部企画経営課長
- ・産業スポーツ部文化スポーツ課長
- ・日野市立学校長 代表
- ・一般社団法人日野市体育協会 代表
- ・文化スポーツ関係団体 代表

5. これまでの取組状況

(1) 協議会

第1回協議会 令和4年10月31日（月）

- ・事業について
- ・キックオフイベントについて

第2回協議会 令和4年12月23日（金）

- ・1月21日キックオフイベント 進捗報告について
- ・「ひのスポ」の目指す姿について

第3回協議会 令和5年 2月16日（木）

- ・ひのスポ！キックオフイベント結果報告と成果・課題の整理について
- ・令和5年度 計画と取組み内容について

第4回協議会 令和5年 5月23日（火）

- ・令和5年度ひのスポ！の取り組みについて
- ・日野型地域文化活動（「ひのカル！（仮称）」）の取組について
- ・協議会要項の改正について
- ・意見交換・提案（グループディスカッション）
 - ＊ 持続可能な財源の確保について
 - ＊ スポーツ施設の確保、指導者の確保について
 - ＊ 令和5年度から始まる文化活動の可能性について

第5回協議会 令和5年 8月24日（木）

- ・ひのスポ！ひのカル！の進捗状況について
- ・アンケート調査結果について
- ・ひのスポ！ひのカル！コード（参画基準）について
- ・意見交換・提案（グループディスカッション）
 - ＊ひのスポ！ひのカル！コード（参画基準）について

第6回協議会 令和5年11月10日（金）

- ・令和5年度後期ひのスポ！・ひのカル！の進捗状況について
- ・「連携Ⅱ型」によるひのスポ！ひのカル！の開催について
- ・今後の事業課題について
- ・ひのスポ！・ひのカル！コード（参画基準）改訂版について
- ・意見交換・提案（グループディスカッション）
 - ＊ひのスポ！・ひのカル！コード（参画基準）改訂版について

第7回協議会 令和6年 2月 1日（木）

- ・後期活動報告
- ・「連携Ⅱ型」進捗状況について
 - *「ひのスポ！ひのカル！奨学金」について
- ・来年度の方向性について
- ・令和5年度の振り返り

（2）令和5年度実施プログラム

① I型（学校施設活用型）

- 女子バスケットボール
- 陸上
- 卓球
- 女子バレーボール
- ソフトテニス
- 男子バスケットボール
- バドミントン
- 3人制バスケットボール
- 料理
- けん玉

② II型（既存プログラム連携型）

- 社会教育センターのプログラム
（剣道、トランポリン、ドラム、書道、ヨガ、登山、けん玉）
- 明星大学でのプログラミング教室

（3）アンケート調査

① 生徒のニーズ調査

実施期間：令和5年 5月10日（水）～6月中旬

対 象：市内中学生

結 果 等：一部抜粋

- 回答生徒の約80%は、ひのすぽ！を知らない。
- 回答生徒の約25%は、eスポーツをやりたいと思っている。また、約23%は、バドミントンをやりたいと思っている。
- 回答生徒の約70%は、地域スポーツに取り組むうえで、重視することとして「初心者でも楽しめること」を望んでいる。

② 令和5年度下半期「ひのスポ！ひのカル！実証後アンケート調査」

実施期間：「ひのスポ！ひのカル！」実施後

対 象：生徒、保護者

意 見 等：(生徒) ※一部抜粋

- 専門の指導者に教えてもらえることはとても貴重だと思います。
- プロの選手により褒められることは、とても自分の自信になるので、褒められた点をさらに伸ばしていけるように部活でも練習をしていきたい。
- ご指導ありがとうございました。毎回、ひのスポ！の後に言われたアドバイスをもとに練習しています。
- 色々な学校の強い選手と戦えることはとても良かったです。

(保護者) ※一部抜粋

- 普段はなかなか学校のことを話さないが、保護者見学ができることで、帰宅してから「ひのスポ！」のことを聞くようになり、コミュニケーションの機会が生まれました。
- この度は、「ひのスポ！」の活動をしてくださり、コーチの皆様、関係者の皆様、ありがとうございました。感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- いつもの部活動と練習内容が全く違う。学校の部活動では、部員も多く、教える先生たちもそのスポーツ種目の専門家ではない先生が多い中で、フォームや基礎の大事な部分を一人一人に丁寧に教えてもらえる機会が少ないのではないかな。
- 「ひのスポ！」ではプロの指導者が教えてくださっているのので、親が競技面のアドバイスをしてもなかなか聞き耳をもたないことが多いが、プロの選手の教えた事よく聞いているのではないかな。

③ 教員向けアンケート調査

目 的：①教員の学校部活動に関する働き方の実態把握

②教員のニーズの把握

実施期間：令和6年 8月21日（水）～9月 9日（月）

対 象：市内教員 207名

結 果：一部抜粋

- 回答教員の58%は、教員のみで部活動の指導を行っている。
- 回答教員の77%が毎月1日以上休日の部活動に従事しており、64%は毎月4日以上従事している。
- 回答教員の60%は、部活動がなければ土日の出勤はない。
- 回答教員の73%は、休日の部活動の指導や運営を負担と感じており、71%は、できればやりたくないと感じている。
- 仮に、休日の部活動の指導は教員が希望する場合にのみ行うとした場

合、回答教員の71%は、指導を希望しない。

意見等：一部抜粋

- 部活動はかなりの負担であり、大切な授業等に時間も労力もかけられない。
- 休日に不在にしていることが多く、家族との時間が作りにくいことは、生徒のためだと分かっているにもかかわらず。
- 勤務時間外に部活動を実施していることを保護者に伝えてほしい。
- 経験したことがない部活動の顧問は非常に負担であり、希望者がいない場合は廃部にする 것도検討してほしい。
- 平日の負担も大きく、放課後も含めて地域に移行してほしい。
- すべての顧問が負担に感じているわけではなく、教員が希望すれば、外部に委託しなくてもいいようにしてほしい。

【アンケート結果から】

- 生徒は、「ひのすぽ！ひのカル！」について知らないが、「ひのすぽ！ひのカル！」のプログラムに対して、学校部活動にない競技等を希望している。
- 保護者は、いつもの部活動と違う活動やプロの指導者による指導など「ひのスポ！ひのカル！」の活動に満足している。
- 教員は、部活動に対して負担を感じている。また、休日の部活動の指導や運営を負担と感じている。一方、全ての教員が部活動を負担として捉えているのではなく、指導等を希望している教員もいる。

6. 令和6年度・令和7年度 of 取組計画及び令和8年度の展望

これまでの活動等を受け、以下のように令和6年度・令和7年度の取組を計画・実施する。
また、継続し実施していけるよう令和8年度の展望も併せて記載する。

(1) 協議会の開催

- 学校部活動に関する課題の解決に向け、日野市の実態に合わせ、地域の文化・スポーツ関係団体が連携し、子供を中心とした誰もが文化スポーツに親しむことができる持続可能な文化スポーツ環境の実現を図り学校部活動の地域連携・地域移行を推進するために、協議会を開催する。
- 協議内容としては、以下の内容とする。
 - 例) ・マニュアルの作成
 - ・「ひのスポ！ひのカル！コード（参画基準）」
 - ・Ⅱ型（既存プログラム連携型）の拡充

- ・受益者負担を含めた持続可能な財源の在り方
- ・保護者・地域の理解増進のための周知・広報の在り方 等

令和6年度	年間2回程度実施
令和7年度	年間3回程度実施
令和8年度	年間3回程度実施

(2) 部活動検討委員会の開催

- 協議会との連携を図り、生徒が多様な文化・スポーツに多く触れられるようにする機会を設けるとともに、教員の働き方改革など、中学校における学校部活動の課題を整理し、よりよい学校部活動への転換を推進するため、部活動検討委員会を開催する。
- 検討内容としては、以下の内容とする。

例)・学校部活動の在り方

- ・「部活動ガイドライン」の見直し
- ・学校部活動とひのスポ！ひのカル！の連携
- ・兼職・兼業の可能性 等

令和6年度	年間6回程度実施、教員向けアンケートの実施、 学校部活動の新增設に関するルールを検討、 活動日数を含めた部活動ガイドライン改訂の検討
令和7年度	年間3回程度実施
令和8年度	年間3回程度実施

(3) I型（学校施設活用型）の拡充

- 生徒が多様な文化・スポーツに多く触れられるようにするため、地域の企業・団体と連携した新しいプログラムを企画・実施する。
- 安定した活動を維持するため、学校施設を活用した文化・スポーツ活動を実施する。

令和6年度	市内中学校8校で展開・10プログラムの実施 (スポーツ：8プログラム、文化：2プログラム)
令和7年度	市内中学校8校で展開・10プログラムの実施 (スポーツ：8プログラム、文化：2プログラム)
令和8年度	市内中学校8校で展開・10プログラムの実施 (スポーツ：8プログラム、文化：2プログラム)

(4) II型（既存プログラム連携型）の拡充

- 生徒に多様な文化・スポーツに多く触れられるようにするため、既に地域で取り組まれている様々な文化プログラム、スポーツプログラムとの連携を推進する。

令和6年度	9プログラム程度の実施
令和7年度	15プログラム程度の実施

令和8年度	20プログラム程度の実施
-------	--------------

(5) 低所得者世帯への対応 奨学金制度

- すべての生徒が平等に文化・スポーツを体験できるようにするため、返済不要な奨学金制度を確立し実施していく。
 - ・Ⅰ型（学校施設活用型）の保険料800円への奨学金の適用は継続する。別途受益者負担を導入する場合は、当該負担についても対象とする。
 - ・Ⅱ型（既存プログラム連携型）においては、奨学金制度の導入により、負担を軽減する。

令和6年度	奨学金制度の運用開始
令和7年度	ひのスポ！ひのカル！の充実状況を踏まえた奨学金制度の充実・改善
令和8年度	ひのスポ！ひのカル！の充実状況を踏まえた奨学金制度の充実・改善

(6) 既存の学校部活動との連携の推進

- 休日の学校部活動を望まない教員が休日の学校部活動に携わらないようするため、段階的かつ可能な範囲で休日の活動を地域クラブ活動へ移行していく。
- 令和6年8月に実施した教員向けアンケート調査の結果やひのスポ！ひのカル！の充実状況を踏まえ、学校部活動の活動日数を含めた部活動ガイドラインの改訂を検討するなど、学校部活動の在り方についての検討を進める。
- 学校部活動以外の活動の中で技術力の向上や人間的成長を図るため、生徒が参加できる環境を整備する。

令和6年度	実証活動：女子バレーボール（平山中）、ソフトテニス（大坂上中） 女子バスケットボール（三沢中） 活動日数を含めた部活動ガイドライン改訂の検討
令和7年度	休日に活動をしなくなった学校部活動を各学校2部活以上にする。
令和8年度	休日に活動をしなくなった学校部活動を各学校4部活以上にする。

(7) 財源・人材確保

- 令和3年度以降、スポーツ庁地域運動部活動推進事業、経済産業省「未来の教室」実証事業、東京都地域運動部活動推進事業、地域スポーツクラブ活動体制整備事業、部活動の地域移行に向けた実証事業に参画し、取組を推進してきた。
- また、令和6年度から、地域クラブ活動体制整備事業として、市単独での事業化を行った。今後、持続可能な活動を展開していくため、国や都の事業の動向を注視し、必要な財源を確保するとともに、安定的な財源の確保に向け、法人（仮）設立や適正な受益者負担のあり方や、「企業版ふるさと納税」や「ふるさと納税」等の活用方策、

スポンサー制度の運用について検討し、安定的な財源を確保に向けた取組を講じていく。

令和6年度	受益者負担のあり方、企業版ふるさと納税等の活用方策、スポンサー制度の運用、法人（仮）設立等の検討
令和7年度	受益者負担のあり方、企業版ふるさと納税等の活用方策、スポンサー制度の運用、法人（仮）設立等の検証
令和8年度	受益者負担のあり方、企業版ふるさと納税等の活用方策、スポンサー制度の運用、法人（仮）設立等の実施

（8）日野市の部活動改革についての周知・広報

- 部活動改革を進めていくにあたっては、子供、保護者、学校、スポーツ団体をはじめとする関係者の理解と協力が不可欠なため、日野市の生徒、保護者、地域に向けて部活動改革に向けての取組や方向性を周知・広報していく。

令和6年度	市の広報誌での周知、チラシの作成・配布、HPの充実、日野市立小中学校PTA協議会への周知
令和7年度	上記以外の周知方法の検討・実施
令和8年度	上記以外の周知方法の検討・実施

7. 本推進計画の見直し

本計画に基づく取組状況等を踏まえつつ、適宜、協議会や部活動検討員会等にて本計画の点検・内容の見直しを行い必要に応じて取組を整理・改訂を行う。